



2018. 12. 21
第 59 号
香川県立香川東部養護学校
進路指導部

「働く幸せ」

進路指導主事 中川 範夫

障害者の雇用促進を目指した国の施策の一つに、障害者雇用率制度があります。現在、一定数以上を雇用する民間企業においては、常用労働者数の2.2%以上の障害者を雇用しなければならないと法律で義務付けられています（公的機関は2.5%以上）。しかしながら、平成29年度の調査では、雇用率を達成している民間企業の割合は、香川県で57.7%、全国値で50%となっており、社会が期待する障害者雇用の水準には、まだ至っていません。

この状況の中、障害者雇用率70%以上の民間企業が、神奈川県川崎市にあります。日本理化学工業株式会社は、学校等で使うチョークの製造を主とした会社ですが、全社員85人中63人の知的障害者を雇用しています。その内の26名は重度の障害者です（平成30年2月現在）。

私は、以前に県外研修の一環で、この会社を見学させていただいたことがあります。工場では、チョークの製造ラインにおいて、担当者の障害の程度や特性に合わせて、独自に粉の種類や量を色で判別できる方法を開発したり、品質を検査する治具を製作したり、継続した雇用のための様々な工夫がなされていました。私は、この整えられた職場環境があつてこそ、障害のある方の誰もが自分の担当する作業工程を進めることができ、働くことができるのだと納得し、感心したことを覚えています。

そして、日本理化学工業の雇用率70%の実現には、会社としての企業努力はもちろんですが、先頭に立って障害者雇用を推進してきた大山泰弘会長の存在があります。見学の際には、大山会長から多くの貴重な話を聞かせていただきました。以下、雇用までの経緯についての話を紹介します。

『50年前、近くの養護学校の進路担当の先生から、卒業予定の女子生徒二人の就職をお願いされました。就職は難しいと考えていましたが、先生の熱意と生徒への同情心もあつて2週間の就業体験という条件で受け入れました。ところが、最終日、働く彼女らの仕事に対する意識や姿勢、生き生きとした笑顔に心を打たれた社員全員から「採用してあげてほしい。」と直訴されたのです。これが障害者雇用の始まりでした。しかし、その時は、障害のある彼女らがなぜ大変な苦勞をしてまで仕事をしようとするのか分かりませんでした。これに答えてくれたのがある禅寺の住職の方でした。「人間の究極の幸せは、人に愛されること、人にほめられること、人の役に立つこと、人から必要とされることの4つです。働くことで社会の役に立ち、必要とされることが幸せを求める人間の証なのです。」この言葉を聞き、健常者には当たり前の「働く」ことが、彼女らにとっていかに「幸せ」なことか気付かされたのです。』

日本理化学工業は、現在も優良企業として安定した経営を続けています。メディアにも何度か取り上げられ、経営学会等からも表彰されています。これも働く幸せを実感できる職場であり、障害の有無に関わらず、会社とそこで働く方々が、Win-Winの関係であり続けた結果だと思います。

見学の最後に、定年まで働いて再雇用されていたあの50年前の女子生徒のお一人が、お茶を出してくださいました。彼女の幸せそうで優しい顔を、私は忘れることはないでしょう。

おかげさまで、本校高等部3年生の卒業後の進路については、全員が一般企業、福祉事業所から就労のご縁をいただくことができそうです。働いて、愛され、必要とされる幸せな人間になってほしいと願いながら、卒業後に向けて引き続き支援をしていきたいと思っています。





小学部



毎年2学期に行われる小学部6年生を対象にした中学部体験学習が、今年は10月11日（木）の3～4校時に行われました。この体験学習は、6年生が中学部の作業学習に参加することで作業学習の様子を知り、中学部での学習や生活への心構えをもつことや、保護者の方々が本校中学部進学について考える機会になるように設定されたものです。今回はその時の様子をお伝えします。

児童は「受注班」「園芸班」「紙加工班」「手芸班」の四つの作業班に分かれて参加しました。

<受注班>

作業の手順表を見ながら、ペットボトルキャップの仕分けをしました。かごに入ったキャップから汚れたものや大きさが違うものを選別し、きれいなキャップだけをケースに並べました。手順を理解しつつ、50分間で4～6ケースの仕分けをしました。中学部の先生に、「よくできました」という評価をいただき、達成感や満足感を味わい、自信につながる体験となりました。



<園芸班>

ぼかし肥料作りと、ポット上げの二つの作業を体験しました。ぼかし肥料作りでは、米ぬかと骨粉入りの油粕、納豆やヨーグルトを混ぜた「えひめA1-2」を色の变化に注意しながら手で混ぜていきました。ポット上げでは、ポットに土を均一に入れ、穴を開けたところにビオラの苗を1株ずつ植えていきました。指示をよく聞いて、てきぱきと作業をすることができました。また、報告もしっかりできました。



<紙加工班>

主に、牛乳パックのラミネートはがしと、紙ちぎりを体験しました。作業の写真カードと台紙（10までの数字の書かれた枠、100マスあるカード）があることで、落ち着いて取り組むことができました。静かに作業に取り組む中学生のお兄さんお姉さんの様子もよく見ていて、みんなのようにがんばろうという気持ちも伝わってきました。



<手芸班>

刺し子のハンカチ作りとアイロンがけの体験をしました。印をねらって針を刺してすくい縫いをしたり、15針ほど縫い終わった後に糸をしごいて、布が突っ張らないようにしたり、全ての行程を丁寧に進めることができました。体験学習後には、頑張ったこと、やってみたいことなどの感想を日誌に書き、素敵な中学生になりたい気持ちを高めていました。





中 学 部



中学部では10月29日（月）から11月2日（金）までの5日間、後期作業週間を実施しました。各作業班の様子を紹介します。

受注班

いちごの箱折りとペットボトルのふたの仕分けに取り組みました。いちごの箱折りは今回初めての作業でした。バリ取りや箱折りなど、分担して取り組み、しわを入れないように丁寧に組み立てました。だんだんと手順を覚え、指先の使い方が上手になりました。後期作業週間中に、2000箱を折り上げることができました。新しい作業内容を覚えて上達が見られた1週間でした。



紙加工班

若竹祭での販売に向けて、みんなで協力して製品を作りました。牛乳パック切り、紙ちぎり、ミキサーかけ、紙すき、脱水、プレスかけといった様々な分担作業を、それぞれが責任をもって取り組むことができました。今年は新製品として竹の子の形をしたポチ袋を作りました。きれいに出来上がった製品を見て、達成感を感じることができた後期作業週間でした。



手芸班

若竹祭で販売をするための手芸製品（刺し子の手拭いとふきん、ビーズのメガネチェーン、フェルトボールで作ったストラップ）やタオルを仕立て直して、足ふきマットや雑巾の製作をしました。個々の生徒がそれぞれの作業に真剣に取り組む、作業能力を伸ばすことができた後期作業週間でした。



園芸班

畑グループでは、若竹祭での販売に向けて、ぼかしの袋詰め作業をしました。やや強い匂いがしましたが、それを気にすることなくどんどん詰めていくことができました。花グループでは、パンジーと葉ぼたんのポットあげや竹プランターと門松作りをしました。太い竹をのこぎりであっすぐに切ることに悪戦苦闘しながら、集中して取り組むことができました。



高等部



2年 後期現場実習

高等部2年生では、10月15日～26日まで後期現場実習を実施しました。前期と違う実習先で経験を重ねるとともに、一人一人がステップアップすることを目標に取り組みました。

この2週間、慣れない仕事や長時間の立ち作業で疲れがたまり、体調をいい状態で維持するのは大変だったと思いますが、ほとんどの生徒が皆勤で実習に参加することができました。よく頑張っていたと思います。実習をやり遂げたことで、前期の実習よりも成長したな、と実感できた人がたくさんいたのではないのでしょうか。

また、実習を通して学校生活では気づけなかった得意なことや苦手なことを知ることができました。食事、睡眠、清潔などの基本的な生活習慣が仕事に大きく影響することも痛感しました。これらの成果と課題を受けて、これからの学習に取り組み、3年生での現場実習を迎えられるようにしていきたいと思います。

《実習の感想》

- ☆ 作業をするにあたって、体力が欠かせないということをこの機会に学びました。
- ☆ 初めてベッドメイキングをしました。わからないことがたくさんありましたが、覚えてできるようになりたいです。
- ☆ 「ありがとう」の声をかけてもらって嬉しかったです。きれいになっていく境内を見て、気持ちよかったです。
- ☆ どうすればたくさんバリを取ることができるかを考えて作業しました。次々と仕事があって忙しかったです。
- ☆ 根気強く草抜きなどを頑張りました。初めての場所で実習するのに緊張しましたが、仲間と協力してきれいに掃除することができました。



〔シール貼り〕



〔ボルトナットの組み立て〕



〔和三盆の台紙入れ〕



〔スイングバック掃除機かけ〕



〔段ボールのバリ取り〕



〔稲わらの運搬〕

2、3年生の実習先

＜2年生がお世話になった実習先＞

さぬき市役所長寿障害福祉課、株式会社よんでんプラス、香川大学農学部附属農場、株式会社バック三樹、長尾寺、社会福祉法人長尾福祉会障害者支援施設のぞみ園、社会福祉法人さぬき市社会福祉協議会さぬき市障害者支援施設恵生ノ園、社会福祉法人朝日園障害福祉サービス事業所朝日平成園

＜3年生がお世話になった実習先＞

(株) A・K・T障害福祉サービス事業所ラ・コパン、社会福祉法人恵愛福祉事業団ワークセンターはくちょう、一般社団法人BIGスマイル障がい者支援施設就労継続支援A型事業所ウィズくすがみ、特定非営利活動法人 KAGAYAKI 就労継続支援B型事業所かがやき、社会福祉法人もえぎの会福祉サービス事業所もえぎの里、社会福祉法人もえぎの会福祉サービス事業所グッジョブMOEGI、社会福祉法人東かがわ市社会福祉協議会さつき園、特定非営利活動法人アイルコートコンサフォス、NPO法人手と手と手スマイリーハンズ、株式会社よんでんプラス、有限会社ダイヤテント商会、株式会社シエンタ障がい福祉サービス事業所シエンタ、社会福祉法人朝日園障害者支援施設朝日園、社会福祉法人ラーフ障害者福祉サービス事業所やまもも、社会福祉法人瑞祥会高齢者複合施設ライムライト、特定非営利活動法人福栄なごみの会なごみ工房、特定非営利活動法人サンライン、さぬき市民病院、株式会社きむら新鮮市場きむら瓦町FLAG店、株式会社りんごハウス障がい者福祉サービス事業所ゆめぽけっと、社会福祉法人長尾福祉会障害者支援施設のぞみ園、社会福祉法人やまびこ会D○やまびこ田村事業所、社会福祉法人洋々会あじの里地域生活支援センター指定生活介護「きらり」、特定非営利活動法人なないろ、特定非営利活動法人ほっと支援キラキラ、社会福祉法人ウルカ福祉会支援センタードリーム、NPO法人音楽療法グループWALKS障害福祉サービス事業所ウォークス